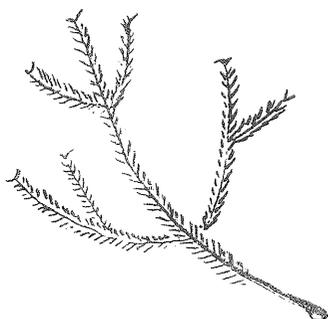
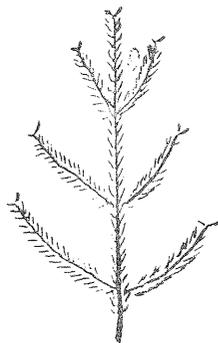


樹木播植方法

樹木播植方法

(乾隆十二年)



枚穂差様

一枚は能々穂撰不申は不叶者候間図の通素生能物を見合
去年翠の所より三四寸程付候て可伐取候可成程は真の
穂宜かるへし又は二三番之枝穂も見合可相用候將又其
余の枝穂にても素生能候は、是又可相用候尤脇枝真に
相勝り能立延候等有之候は、其真は切去り脇枝を真に
成し可相用候

附

一 去年翠之所は赤色に有之候間其見合を以て可切取候穂とげ様口伝

一 真の穂相用候ては本木用立不申候間穂差付候時分相考へふけ取可相用候左候は木の費無之旁可宜候

一 穂拵は小枝真の方に二三段計相残し一刀に尖げ候心地可致候馬の耳形にとげ又三角にとげ候事も有之候得共馬の耳形はとげ所余り長く相成不宜候迎もの事三角切は宜有之候

一 敷地拵は兼て差渡し一尺五寸程に深く打起置可成程兩三度つゝ打返し些堅まる時分能く土熱見合串にて差入其後穂とげ差込踏み堅め折々草可取除候

一 附差付候時余り潤ひ過候ては不宜候間其見合肝要に候

一 穂拵候て即々差付候方能く有之候得共大分の働にて難相達候は根本水に浸し置格護可致候尤水に浸し候時清水より却て濁り水に浸し候方可然候濁り水に浸し候

得は其穂潤宜活付も能く有之候尤濁り水に浸候は大木に成り木目に濁り染付申由候得共本来右沙汰にて無之木の素生にこそ可有之哉赤枚黒枚或は江戸枚と申候て各木性相替り候

一 穂傾候て東に向け差付候儀本法に候然れ共山形次第に候山の頂にそゑ可差付候峯地には山の頂にそゑ横様差付可申候間其見合肝要に候

一 穂差付候時限は正月初翠り未だ発生せざる内宜有之候二月初め頃迄は漸く相濟候

枚種子植様

一 実九月よ？先熟之時分見合取候て莖に翻げ日に干し策にて打実悉く打尽さずして半分程も打残し共に可時入候穀の中よ？能活出申物に候

附実熟致し候時分は色赤相見得候

一 土拵は如何にも肥土乾過無之所可成程兩三度も打返し少し潤有之時分時入尤木蔭無之日当強く候は日覆致し右の苗高五六寸程立延候時分抜取可植付候尤節は正

二月にて候こをし様は本毎に土不散様こをし植付候得ば枯も無之盛生宜有之候

一枚仕立候敷場は抱護対峙相揃嶺地広く土地深き所見合兼て差渡耆尺五寸程深打起置候て可植付候

桐木仕立様

一 八月之頃実自落候を拾取たわらに入皮のやわらけ候時実相調部植付左候て敷場風当り無之様可成程嶺地又場所により潤地も能々溝を捌湿を下け候得は可相済候猶又種子植付様は兼て二三尺廻程深打起置一粒つゝ可植付候

附

一 植付候て四年目よ？実相付申物にて其儘生立せ候ては余り立過枝数無之実付少有之候間毎年十二月之頃真を可摘候左候得ば春毎に枝数多差出実付相増申候尤植付候尺間は三尺程可然候

一 一所に寄苗仕候は、落葉の時分こをし可植移候落葉不仕内植付候得は過半相枯申候縦令少々植付候ても盛生

遅不宜候

松仕立様

一 松は実植可然候苗植は大木に成り終に朽入多出来然々用立不申候間嶺地又は平地広太の場所見合二三尺程打起し草根鬚け取除又拵にて五六度も雨に打堅めさせ如何にも手広可相仕立候

一 種子取候時分九月之頃実之皮赤色付開眼に相見え候等もり取筵に翻け日に干し策にて可打取候

一 苗松取様実付候松近辺打起置候得は自然に種子落萌出可申候右に付炭薪木採伐採候山には所々に種子松相残すへく候

枅木仕立様

一 枅木は山気の能相含み候敷地式尺四寸の間に差渡耆尺五寸程深く打起置穴毎に種子二粒つゝ或は一粒にても可播植候土覆ひ候儀三四分程可然候

附 枅木よす木仕立様同断候尤柚山内にて候は、猪す

け候間能々了簡可有候

櫻木いく木いちよ木仕立様

一 種子蒔並苗植付候敷地拵様枚敷同断其山敷二尺間にし
て差渡老尺五寸程打起置草木の根鬚小石取除土熱見合
候儀枚敷同断

一 檜木種子は潤ひ無構蒔入土老分程覆ひ候て日覆致すへ
く候土厚く覆ひ候得は結句萌出兼申候將又早打統候節
折々水を掛け見合次第水壅薄く相用ひ可然候尤苗萌揃
日に当候ても不痛時分日覆可取除候

一 檜木種子五六月熱見合もり取則々水に入浮出候等除け
沈み候分取揚可蒔入候尤種子收集其儘召置候得は早速
虫入斃り多相成物候間即々細か成土を些と混交し可置
候

附右苗種子蒔入候て翌年十二月よて次春迄翠り出さ
る内植付可然候

一 いぢよ種子八月より九月迄熱見合もり取日に乾し策に
て打ち皮を去り可成程浅く蒔入候土深く埋め候へは萌

出少相成物に候

附皮は不取分候て殻とも蒔入候ても不苦候

一 いく種子は八月熟の時分もり取皮去り可蒔入候尤皮去
り根は取集移り俵杯に入七八日程召置候へは皮やわら
け候間其時分手にて揉み碎き莖に飜け日に干乾し猶又
手にて揉み殻ともに可蒔入候尤もり取早速もみ調候儀
殊の外隙取夫丸の費相成候

一 いく苗は高四五寸程相成候分植付可宜候尤萌付難き物
に候間随分入念土相付こをすへく候自然右種子長々格
護仕置候はく皮去らす其儘如何にも日に干し調置蒔入
候時分皮去り宜可有之候

柚山内樹木憔悴の所仕立様

一 樹木憔悴致したる山は魚鱗形を以て相開諸木相仕立候
得は山気相含能盛生致し候尤自然に種子入渡生産候間
其節有来候曲木は山工致し候程樹木抜群盛生可致候間
其了簡肝要候

広大野樹木仕立様

一 薄原にて薄高五六尺程相立候場所は薄能抱護にて候間
魚鱗形相開き内に諸木可仕立候

一 附薄高五六尺程立候は、魚鱗形差渡四五間程相明け
可然候薄抱護は横三尺程可相残候

一 茅生茂り候地所は茅抱護にて相濟候間魚鱗形相開き内
に諸木可相仕立候

一 但魚鱗形差渡尅間程相開く可く候茅抱護は横式尺程
相残し可然候尤抱護の薄茅長短によつて魚鱗形広狭
見合肝要に候

附魚鱗形左に記す(一九八ページ―編者)

一 魚鱗形曲成にも凡形三角四角にも場所次第相開べし
図の通限るへからず

一 魚鱗形廻抱護にして内にも抱護にして場所次第見合
べし

竹仕立様

一 苗竹は三四本も五六本も一株つゝ根不碎様入念こをし

鬚伐捨空枝付候所相残し余は伐捨又切口は竹の皮又は

砂仁の葉杯にて雨の不溜様堅包置き尤枝先切去り根は
棒杯にて突堅め風当り候て不動様助木を立可結付置候

附

一 其根を手足にて堅め又は手足の洗汁杯掛候得は殊
の外悪敷候

一 壅は馬糞並稲粟のすくほ等又は牛馬羊豚の骨杯竹
の根に不障様所々に埋め置候は、別て能有之候

一 竹敷の儀も樹木敷同前抱護無之候は、別て不宜候植付
候敷場左右の土高上り谷の根成所且川辺小石杯有之湿

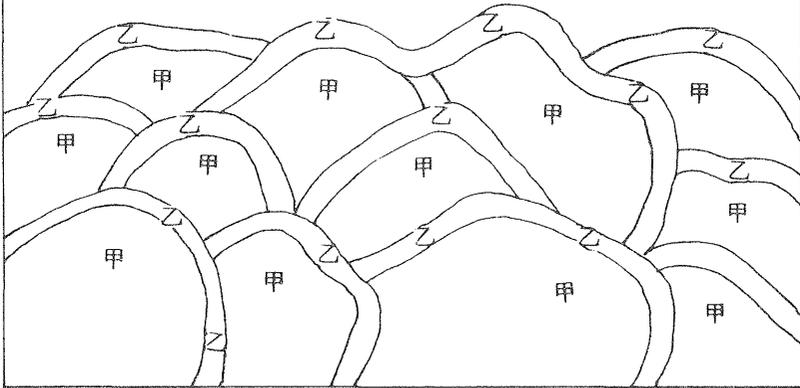
の含みたる所を撰植付候得は能有之候尤植付候時節正
二月にて候

一 竹山敷困無之所は諸木植付抱護に致すべく候尤風強く
当り候所は敷地中にも所々諸木植付能有之候

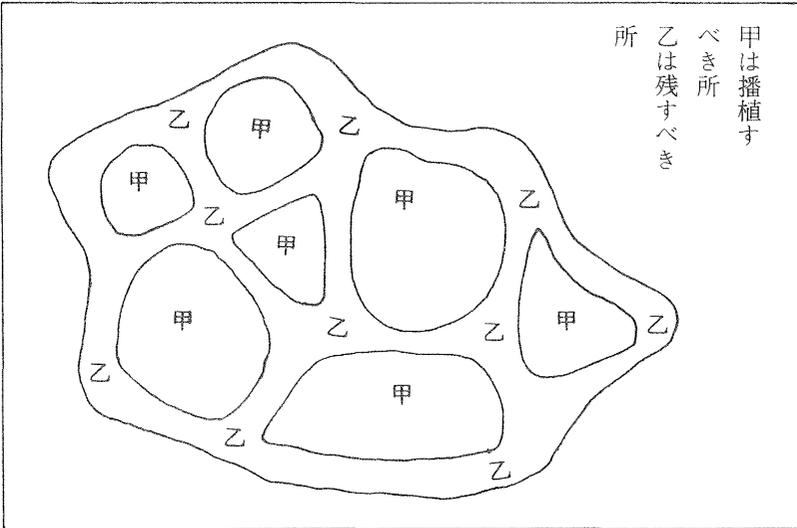
一 竹山敷及憔悴候儀根鬚け混合候故右通候間其山敷の恰
好見合幅式間づゝ図の通り(一九九ページ―編者)竹

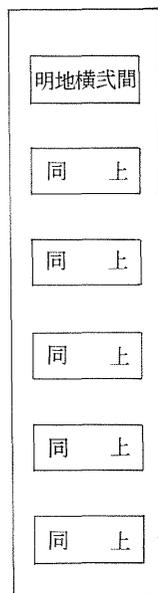
伐除根堀取敷捨致し置候は、其翌年より右敷地へ竹寄
子出盛生致し候

甲は播植
すべき所
乙は残すべき
所



甲は播植す
べき所
乙は残すべき
所





一 右敷地へ竹可差寄候右竹篤と有付候は、最前残置候竹
伐除け敷拵可致候左候得は其所へ又々子差寄夫よ？山
敷惣様宜敷罷成年増盛生致し候

毎年竹山相改候歳相記様

一 当春出候子八月に相改候節本毎に五六寸の所へ小刀に
て一の字相記し其翌年も右同断記置夫よ？三四年も右
の通り可相記候

一 三年よ？は色相付三年四年竹と見分け不罷成候故年数
見分けの為め毎年改右通り可相記候

竹伐取様

一 竹本毎に三如斯印へ相付置候間五つ相付置候竹は五年
四つは四年にて候間五年四年竹よ？切取可相用候
附三年竹迄は子出候間三つ有之候物は曾て切取間敷
候

一 竹の儀右通三年迄は子出し申事候間風折にても三年内
の竹は大切致し相不痛様可伐取候

右通此程樹木並竹仕立相試候処宜有之候間此段首尾申
上候以上

乾隆拾二年丁卯九月 山奉行 野村里之子親雲上

右遂披露候処申出之通仕立様能有之候間山方役人へ
委曲令相伝樹木相仕立候様可被申渡旨御差図にて候
以上

乾隆拾二年丁卯九月 源河親雲上

安里親雲上

